



「地域に恩返ししたい」
と願う黒田憲一さん

大洋建設社長

黒田憲一さん

横浜市戸塚区に本社を置く大洋建設。地域密着の総合建設会社として、地域貢献活動にも熱心だ。社長の黒田憲一さんは6月、所有

地元の「キーパーソン」

していたイタリアのバイクメーカー「ドゥカティ」の大型三輪を白バイ風に改造して戸塚署に寄贈。大洋建設の地域貢献に向けた思いを聞いた。（聞き手 橋本愛）

地域貢献活動を展開

■くろだ・けんいち
昭和34年生まれ、63歳。富山県出身。東京理科大学、昭和58年に大洋建設に入社し、平成13年に社長就任。学生時代に米国のバイク映画に魅了され、東京・鹿児島を2週間かけてバイクで走ったほどのバイク好き。「感動と好奇心を大切にしている」。

「どのような地域貢献活動をしていた珍しい車両があり、交通安全のシンボルにしてみたらと白バイ風に改造して戸塚署に寄贈しました」

「交通安全や詐欺被害防止の懸念を払って本社ビルの外壁に掲げたり、子ども食堂を開設したりしています。青少年育成を目指し設立した野球のヤングリーグチーム『オセアン横浜ヤング』は全国優勝経験もあり、横浜高校野球部で甲子園に出場した緒方蓮選手（3年）も輩出しました。私はバイクが趣味ですが、倉庫に眠らせ



横浜市戸塚区に本社を置く大洋建設

建築でいい街、夢を

「戸塚区は人口が増加傾向で子供やパレエなどの習い事の発表の場にもなればと、所有していた土地を活用して地域貢献の一環として建設しました。戸塚の名所の一つになればと建築家の隈研吾先生に設計いただき、開設後はアーティストの方々の創作拠点としても活用いただいています」

「地域貢献活動の原動力は「建築は何もないところにもものを作るので、騒音や振動など、通行する方や近所の方にご迷惑をおかけする。だからこそ地域の方に恩返ししたいと考えています。いい街ができればいい未来、夢ができる。もちろんこうした活動は本業がうまくいってこそなので、社員には感謝ですね」